



# くすりと健康

一般社団法人  
神戸市薬剤師会

## 薄毛

髪は、頭皮から出ている「毛幹」の部分と頭皮の下に隠れている「毛根」の部分からできています。毛幹は、一般的に髪といわれている部分で、活動が終わった細胞でできており、成長することはありません。髪が伸びているのは、毛先が伸びているのではなく、毛根の根元の方にある「毛球」の「母細胞」が頭皮の毛細血管から栄養などをもらい、細胞分裂を繰り返して成長し、頭皮の方向へ伸びていきます。そして次第に水分を失い毛幹の組織に変わり、根元の部分から押し上げていくことで、髪が伸びているのです。この髪が伸びている期間を「成長期」と呼び、通常2～6年ほどです。その後、毛球は細胞分裂をやめ髪の成長は止まります。この期間は2週間ほどで「退行期」といいます。次に、数カ月かけて毛根の長さが短くなり頭皮表面に近づいていきます。

その下では新しい毛球が生まれ、その毛球が髪へと成長していく過程で、元の髪は押し出されるようにして抜け落ちます（休止期）。この成長期から休止期の流れを「ヘアサイクル」と呼びます。1本1本の髪のヘアサイクルが違うので抜けるタイミングも異なるため、通常一度にまとまって髪が抜け落ちることはありません。

ヘアサイクルが乱れて成長期の期間が短くなったり、頭皮の血行が悪くなったりすると、髪が成長して太く長くなる前に抜け落ちて、細く短い髪が多くなり、薄毛の状態になります。原因としては、遺伝やストレス、加齢、男性ホルモンの影響などが考えられています。

男性ホルモンの影響による薄毛の治療薬には、5α還元酵素阻害薬であるフィナステリドとデュタステリドがあります。男性ホルモンの一種であるジヒドロテストステロン(DHT)が毛乳頭の受容体と結びつくとTGFβという脱毛因子が活性化し、毛母細

胞の働きを弱めて髪の成長を妨げますが、5α還元酵素阻害薬はDHTが作られるのを防ぎ、髪を抜けるにくくします。この薬は、男性にのみ有効で、女性が使用することはできません。

薬局などで購入できる塗り薬としてミノキシジルがあります。この薬は、もともと血圧を下げる薬として開発されましたが、体毛が濃くなる副作用があつたため、髪に対する作用が研究され、発毛薬として販売されるようになりました。発毛を促す作用は、毛母細胞の増殖を促すことで髪が生えてくると考えられています。

いずれの薬も、効果が表れて髪が伸びるまでには数カ月程度の時間がかかります。また、根本的に治しているわけではなく、使用を中止すると元の状態に戻ってしまうため、継続して使用する必要があります。

(北区) 薬局エビノファーマシー

松本博志